
令和元年度第6回飯塚市子ども・子育て会議 論点メモ

第6回飯塚市子ども・子育て会議（令和元年11月15日開催）における質疑及び検討結果は、以下のとおり。

第2期子ども・子育て支援事業計画について

- 11月14日の議会の内容を共有していただきたい。
⇒11月1日現在、未利用児童数121名、実質的な待機児童は28名。保育士不足により定員に達していない保育所もある。病児保育については、今後も委託先を検討する。嘉麻市や桂川町との広域連携での協議も進めている。
- （上記報告を受けて）待機児童がいる中で、保育士不足により定員に達していない保育所もある、というのは、事業として上手くいっていないのではないかと。
⇒保育士不足の解消による入所増を進めている。
- （上記回答を受けて）園に不満はあるけど、仕方ないからここに預けるとする保護者もいる。保育士不足だけでなく、子どもや保護者視点での園の体質改善もやらない限り、入所増は見込めないのでは。
- 縦割り保育のメリット・デメリットを教えてください。
⇒メリット：きょうだい児が少ないなかで、異年齢の交流ができる点。デメリット：大きい子どもが小さい子どものお世話で、自分のしたいことができない。ただし、学年別の保育の時間も取って、その点は補っている。
- 縦割り保育のデメリットについては保育の質についても関わると思うが、市は状況確認や監査を行っているのか。
- 子ども・子育て会議の進め方について、発言するメンバーが固定化されているので、会長を中心に色々な方に話を振るなど、ファシリテートして頂きたい。
- 来年度以降は、子どもの成長といった観点から、小児科医を会議のメンバーに入れていただきたい。
- 保護者は0歳からとにかく園に入りたい、という気持ちを持っている。自分が入りたい園に入るためには、そうせざるを得ない保護者がたくさんいる。こういった状況も事務局には理解していただきたい。

- 教育・保育提供区域の設定、放課後児童クラブは小学校区、その他は全市といったことは一般的なものなのか。
- 現実問題として、空いているからといって遠い保育所に預ける保護者がいるかというところではないと思うが、教育・保育の提供区域を全市としてよいのか。
⇒入所の紹介の際には、近隣を紹介する仕組みを取っている。
⇒保育所等の新設を検討する際は、旧飯塚地区と旧穂波地区でわけて検討している。
- 病児保育の利用率が低いという問題について、情報共有を。
⇒事前予約制となるので、予約後、病気が治った等でキャンセルがあり、実際の利用数の倍ほど申し込みがある状況。
- 認定子ども園への移行を予定する園の数を教えて頂きたい。
- 認定子ども園の移行によって、待機児童が解消されるようしっかりと指導して頂きたい。
⇒移行予定は1園のみ。
- 量の見込みについては「承認」
- 確保の内容の見方について、「差」の欄はどう見たらよいのか。
⇒量の見込みについて、確保が不足していないことを分かりやすく示すため。
- 放課後児童クラブについて、量は増えていくか横ばいになっていくと思うが、いかが。
⇒児童人口の推計を元に計算するとやや減っていく結果となる。多少は前後すると思うが、ニーズに応じて今後も確保していく。
- 乳児家庭全戸訪問事業については、実際に全員に会えているのか。
⇒健診未受診等、行政のサービス等を利用していない方も把握している。